

### 1. 交通網の整備による工業の成長

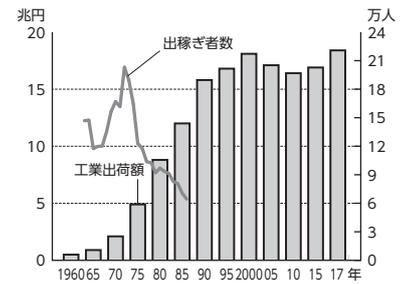
- (1) 資料Ⅰから、東北地方の工業出荷額の変化についてまとめ、その要因を考えてみよう。

変化	要因
(例) 1970年ごろから、大きく増加してきたが、2000年ごろからは変化が少ない。	(例) 1970年代から1980年代にかけて、東北自動車道や東北新幹線などの交通網が整備されたことで、その近くに工業団地が造られたため。

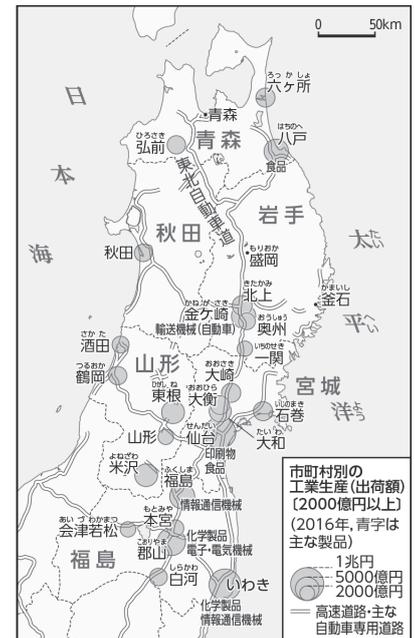
- (2) 工業出荷額の変化に伴い、資料Ⅰから読み取れる東北地方の変化を挙げてみよう。

(例) 働く場所が増え、出稼ぎがほぼなくなった。

資料Ⅰ 東北地方の工業出荷額の変化



資料Ⅱ 東北地方の主な工業と出荷額



### 2. 新たな工業の発展と環境に配慮したエネルギーの導入

- (1) 資料Ⅱから、出荷額が5000億円以上の都市と主な工業製品を挙げてみよう。

工業都市	仙台、福島、郡山、いわき、金ヶ崎、八戸
工業製品	(例) 自動車、情報通信機器、化学製品

- (2) 東日本大震災の原子力発電所の事故をきっかけに、東北地方で導入が進んだ再生可能エネルギーには、どのような発電方法があるのか挙げてみよう。

(例) 風力発電、地熱発電、太陽光発電、バイオマス発電 など

資料Ⅲ 南部鉄器の製造風景



### 3. 進化する伝統的工芸品と後継者の育成

- (1) 資料Ⅲの南部鉄器などに代表される伝統的工芸品とは、どのようなものか説明してみよう。

(例) 古くから地元でとれる材料を利用して作られてきた伝統的な工芸品。

- (2) 南部鉄器をめぐる最近の変化や、課題についてまとめよう。

変化	(例) 現代風にデザインを工夫し、国内だけでなく海外に輸出するようになった。	課題	(例) 職人の高齢化や後継者不足
----	--	----	------------------

### 本時のまとめ

◆ 東北地方の伝統的工芸品はどのように変化しているのか、説明しよう。

(例) 生産量の減少に対応し、現代風にデザインを変えるなどして、国内だけでなく海外でも人気を得られるように工夫をしているほか、訓練校を開いて後継者の育成にも取り組んでいる。